

ボランティア募集

羽津子育て支援びよびよ

羽津子育て支援びよびよは、毎週水曜日(10:00~11:30)、さろんde志氏我野で「遊ぼう会」を開いています。(0歳から2歳くらいの乳幼児と育児中のママが対象です。)
今、お手伝いをしてくださるボランティアさんを募集しています。月に一度、子育てに寄り添い、無邪気な笑顔に癒されるひと時に参加されませんか!
詳しくは059-331-9145(東)までお問い合わせください。

女子カアップ講座

女性活躍部会(ハナモモ)

4月から6月の女子カアップ講座は、下記のとおりです。

	【4月度】	【5月度】	【6月度】
講座名	やさしいダンス&ストレッチ	和菓子作り	お寺deコンサート
講師	油田直美さん	富田精華堂・生川弘章さん	出會深雪さん(二胡) 山田友希さん(ピアノ)
開催日時	4月23日(水)13:30~15:00	5月19日(月)10:00~12:00	6月22日(日)10:00~11:30
開催場所	市民センター2階大会議室	市民センター3階調理室	鶯・浄恩寺
参加費	無料	500円(材料費)	無料
事前申込	要(定員20名)	要(定員16名)	不要
持ち物	汗拭きタオル、水分 動きやすい服・靴で	エプロン、三角巾、布巾 タオル、タッパー	なし

3月下旬から4月の行事予定

3月20日(木・祝) 市民緑地竹あかり点灯	4月12日(土) 無料塾「ぐるにえ」
3月21日(金) さんきゅう食堂	4月13日(日) ベビーマッサージ教室
3月22日(土) 市民緑地まつり	4月15日(火) バレトン教室
3月24日(月) バランスボール教室	4月18日(金) さんきゅう食堂
3月28日(金) さんきゅう食堂 子供食堂「&ゆう」	4月19日(土) タケノコ掘り
3月29日(土) ものづくり講座 無料塾「ぐるにえ」	4月23日(水) やさしいダンス&ストレッチ
4月4日(金) さんきゅう食堂	4月25日(金) さんきゅう食堂 子供食堂「&ゆう」
4月11日(金) さんきゅう食堂 子供食堂「&ゆう」	4月26日(土) 無料塾「ぐるにえ」
	4月28日(月) バランスボール教室
	5月6日(火・祝) まち協理事会

編集後記

少しずつ暖かい日が増え、春らしくなってきました。今年度はコロナ禍以前のように多くの行事を行うことができました。ご協力、参加していただきありがとうございました。4月からは新年度、新生活が始まります。身体に気を付けて頑張りましょう。
広報委員会(N)より

有料広告

妻恋稲荷神社 大祭4月13日(日)
~朱鳥居・のほりご奉納 受付中~
奉納書道・写生大会
書道3月30日(日) 写生3月16~30日



誠之宮
志氏神社
大宮町14-6
TEL 059-331-0620



額突山市民緑地まつり

総務委員会

恒例の額突山市民緑地祭りを3月22日(土)に開催します。羽津小学校及び羽津北小学校の6年生などが制作した竹あかり作品も展示し、3月20日(木・祝)から3月22日の間、夜間に点灯します。ぜんざい、豚汁のふるまいやキッチンカーや模擬店の飲食もあります。詳細は、各戸配付のチラシをご覧ください。

タケノコ掘り

総務委員会

額突山市民緑地に繁茂している竹伐採の一助としてタケノコ掘りを実施します。掘ったタケノコは持ち帰れます。タケノコご飯や豚汁のふるまいもあります。

【実施日時】4月19日(土) 9:00~12:00

【集合場所】額突山市民緑地駐車場

【持ち物】片手鋤又はタケノコ掘り鋤又はスコップ、軍手、古新聞、持ち帰り用袋

ミュージック・パレット演奏会

人権教育部会

2月16日(日)、ミュージック・パレットによる演奏会を開催しました。代表の坂倉さんから、ミュージックベルの演奏だけでなくピアノ演奏も加えたいとの要望があり、ランドピアノがあつて暖かいホールのある「かすみの里」を会場に選びました。

朝まで降っていた雨も止み、ミュージック・パレットのメンバーは早朝より演奏会準備とリハーサルなど手際よく進めて、本番を迎えるころには70名近い観客がホールを埋めていました。ピアノ演奏は坂倉さんがメンバーの子どもたちのピアノも弾きたいという思いを聞き、試行錯誤を重ね、たくさんの練習と音楽への愛情で取り組んでこられた成果です。弾き終わった子達の満足そうな表情が印象的でした。

最後に参加者全員が二つの音のハンドベルを持ち坂倉さんのリードで演奏体験もし、暖かく和やかな雰囲気の中で演奏会を終えることができました。

ものづくり講座

総務委員会

3月に入り、ものづくり講座を開催しています。全5回の予定で記事執筆時点までに第1回・第2回を完了しました。第1回は「燃料電池ミニカー組立て」でした。プラモデル感覚で部品を組み合わせてはめ込んでいだけですが、皆さん、時間内に完成して動かすことができました。

第2回は「3Dプリンターを使ってみよう」で、午前中はインターネットからデータをダウンロードしてプリンターで印刷し、午後は3D CADを使って3Dモデルをデザインするという体験してもらいました。保護者と一緒になって取り組み、全員が時間内にモデルを完成させていました。参加者の反応も良好で今後の展開も考えたいと思います。

第3回は3月16日(日)に電子ピアノ組立て、第4回は3月22日(土)に額突山市民緑地会場にてのソーラーバッテリー組立て、第5回は3月29日(土)に菰野町の前田テクニカにマイクロバスで出向いての金属モデル組立てです。参加申し込み状況は芳しくなく各回とも余裕があります。本紙がお手元に届く頃には第3回は終了していると思われるかもしれませんが、第4回・第5回には是非ともご参加ください。第5回については、マイクロバスの定員の関係上、参加を希望される方は予め、まち協事務局(TEL 331-5333)までご連絡願います。

東日本大震災から学ぶ

防災・減災部会(マリーゴールド)

3月7・8日に防災講演会を開催しました。東日本大震災から14年、講師は当時、釜石東中学校の理科教師だった糸日谷美奈子さんと、当時中学一年生だった紺野堅太さん。

7日は羽津中学校で中学1・2年生対象に『生徒目線と教師目線で語る東日本大震災』、8日は四日市羽津医療センター健康センターで羽津地区住民対象に『学ぶことで助かる命がある』をテーマにそれぞれ行いました。

お二人は被災当日に雪の降る中で避難する判断の過酷さ、難しさについて語られました。多くの生徒が体調を崩し、避難訓練以上の困難に対して生徒だけでなく教師もパニックになったことが赤裸々に語られ、聞いていて悲惨さがひしひしと伝わりました。被災当日の避難の様子は、

- ◆1000人の中学生、小学生、地域住民が体育館で体育座りで一夜を過ごした
- ◆1000人に簡易トイレが一個
- ◆段ボールを一人ノート一枚分くらいに分けてジャージのお腹に入れて暖めた
- ◆津波で流れてきた袋菓子の個包装された菓子や、トラック荷台にあった干物をグレーチングで焼いて細かく切ったもの少量が晩御飯 等々

被災した子どもの心情についての話では、さらに衝撃的でした。“生徒全員の保護者に連絡がついたのは一週間後でした。その間に一人、また一人…と保護者が迎えに来ると「あ～、良かった～」と手を取り合って無事を喜びあい、保護者と生徒を引き合わせていました。でも、しばらくするとまだ迎えに来ていない生徒の表情が不安に満ちていったのです。今、話を聞けばそうだよね…と思えるかもしれませんが、極限状態の感情の中で、そこに気づくのが遅くなったことを深く後悔しました。”

“先生、釜石の奇跡って言うけど奇跡じゃないよね。”当事者である中学性が『釜石の奇跡』と報道されているときに言った言葉だそうです。避難訓練を何度も繰り返し、それをその通りやっただけ、その通りやったら助かった、だから奇跡じゃない。その日学校を休んでいた生徒の中には津波で亡くなった生徒もいた。美談だけが先走りしていったけれど、もっと事前にやれることがあったのではないかと。そうしていればもっと助かる命があったはずだ、と講師のお二人は後悔しているとも話されました。

- ◆防災計画の被害者数に自分の家族入っているのか。今まで想像したことがなく改めて気づかされた
- ◆災害時の心の4段階の変化、地域防災計画、など、知っておきたいと思った
- ◆「四日市はまだ災害が起こる前だ。今ならできることをしておくことができる。」の言葉に、学ぶ、備える、つながる、が大切だと痛感した
- ◆二日間、心にささる有意義な講演会になりました。

図上訓練(風水害)の報告と来年度の活動に向けて

羽津地区連合自主防災会

2月に連合自主防災会最後の事業である図上訓練(風水害)を行いました。昨年度少人数で行いたいという要望にお応えして、今年度はブロック毎で開催しました。内容は、第1部で自宅のリスクと避難行動、第2部で要支援者対応を行いました。第1部は防災カルテを見て自宅のリスクを確認し、ワークシートを使って避難の必要性、避難先、避難に要する時間、避難のタイミングを確認しました。第2部は、台風の防災情報、画像を時系列で提供し、地図にプロットした要支援者の避難の必要性、手段、避難先、タイミングを検討しました。少人数班の訓練にしたため活発な議論が展開され有意義な訓練となりました。

来年度は通年の事業に加えて、災害時に地域と関係機関の連携がスムーズに行われるようにすることを目的に、地域、学校、行政、医療機関等が災害時に起こる様々な状況を想定し対応策を検討する合同図上訓練を計画しています。また、例年夏休みに行われていた防災サバイバル体験学習は、熱中症対策の観点から春開催の実施に向けて計画中です。来年度も「今この地域は災害発生前」であることを認識し、しっかりと備えを行い、災害が起こった時に後悔しないように取り組んでいきたいと思っています。引き続き地域の皆様のご協力をお願いいたします。

おうちごはん

児童福祉部会・井上由貴

3月8日(土)のおうちごはんは「お花見弁当」を作りました。まだ、外はお花見の時期ではありませんが、その頃にはこんなお弁当を持って行きたいなあとの思いを込めて。今回のポイントは「おにぎらず」です。2種類あって、1つは卵焼きとソーセージ、もう一つは味付き肉とレタスです。あと、ちくわにチーズを詰めました。とても頑張ったので、すっかり写真を撮り忘れしました。なかなか見栄え良く弁当に詰めるのは難しいですね。家に帰って、私が作った、模範弁当の写真を載せてみました。ちくわでお花も作っています。



今年度の活動は、今回が最終でした。次年度のおうちごはんは、6月を予定しています。

部会・委員会紹介

交通安全部会の活動紹介

交通安全部会・掛下泰司

交通安全部会は四日市北警察署、四日市北地区交通安全協会、小中学校PTA、各町自治会の協力をいただきながら、パンダストップマーク貼り、飛び出し君の制作、自転車講習会の開催の3つの活動を実施しています。その他、文化祭への参加協力も活動の一つです。今後は、高齢者の交通安全意識の向上と通学路の安全性を確保する活動も必要と考えています。

地区の皆様も、交通事故のない羽津のまちの実現のために右側通行並びに安全走行、自転車・バイクの思いやり運転を心がけていただきたいと思います。

まち協役員リレー随筆

『助けてもらう人』から『助ける人』へ

副会長・宮本正則

『釜石の奇跡』をみなさん知っていますか。東日本大震災の時、釜石市の小中学生ら約570人が津波から迅速に避難して全員無事だったことから、『釜石の奇跡』と称賛されたという話を。

3月7日(金)、羽津中学校で、当時釜石東中学校の教師と生徒による防災講演会が、羽津地区まちづくり推進協議会の主催で行われました。『釜石の奇跡』というきれいな言葉の裏では、大切な人が亡くなっているという現実があり、事前にもっとこうしていたら誰かを助けることができたのではないかと後悔が今でもあるとのことでした。そのような違和感や葛藤の中で、きれいごとを言ってもらえない厳しい避難生活を知ってもらうだけでなく、自分が学んだことをもっと家族や地域に伝えていきたいとの想いから語り部として活動されているそうです。

もし、平日の昼間に災害があったとしたら、事前に避難所での役割を決めていても、その人が来るのを待っていることはできません。どんどん避難所には人が集まってきます。そこで重要になってくるのが、「学校」のチカラです。実際、学校は避難所になっていることが多く、その学校で「初動の対応」をどれだけ行うことができるかで、その後の避難所の状況も大きく変わってくると思います。

また、釜石東中学校の生徒たちの「自分の命は自分で守る」ための率先した避難が、小学校の児童や地域の人たちを巻き込み「他の人を助ける」行動へとつながりました。この講演会の中でも、「中学生は助けられる立場ではない。中学生は助ける立場。平日の昼間、地域を守るのは中学生」との話がありました。

そこで忘れてはいけないのが、ただ中学生が率先して避難をしたから助かったのではなく、小学校や地域のみなさんとの日ごろの合同訓練をはじめ、いろいろな場面で積み重ねてきた「交流」が生んだ結果ということです。

改めて、「学校・地域・家庭」の「連携」の必要性を考えさせられた講演会でした。

有料広告

新入学、ご卒業



おめでとうございます。

いちごサンド



パン工房ブルーミング
火～金・第2.4土曜日
8:30～16:30
四日市市別名3丁目2-12
☎059-333-7370